

平成27年3月10日

キャリア教育支援資料 「キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査」パンフレット 子供たちの「見取り」と教育活動の「点検」 ～キャリア教育を一步進める評価～について

このたび、国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センターにおいて、キャリア教育の更なる推進・充実に資するため、標記の新資料を作成し、全国の小学校、中学校、高等学校、教育委員会に配付することになりましたので、お知らせいたします。

1. 趣旨

この支援資料は、「キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査」の結果を基に、全国の小学校、中学校、高等学校、教育委員会を対象として作成したものです。

上記の調査で、評価の重要性は理解していても、評価の仕方がわからないという学校の先生方の悩みが明らかになっています。そこで、キャリア教育で進めるべき評価を「見取り」と「点検」に分けて、ポイントや事例等を用いてわかりやすく解説しました。

2. 主な内容と特徴（詳細は別紙参照）

- ・“評価”に悩む先生方へ このパンフレットの使い方（P2, 3）
- ・見取りに係る調査結果、見取りを行う上で大切にしたいポイント（P4, 5）
- ・点検に係る調査結果、点検を行う上で大切にしたいポイント（P8, 9）
- ・見取りと点検の関係性（P12, 13）

3. その他

各都道府県・政令指定都市教育委員会及び各小学校、中学校、高等学校に送付し、併せて本研究所ホームページに掲載します。

【研究所ホームページ URL】 <http://www.nier.go.jp/>

（お問合せ）

国立教育政策研究所

生徒指導・進路指導研究センター総括研究官	長田 徹	電話：03-6733-6735
生徒指導・進路指導研究センター研究員	立石 慎治	電話：03-6733-6883
生徒指導・進路指導研究センター企画課長	人見 達也	電話：03-6733-6879
生徒指導・進路指導研究センター企画課指導係主任	木村香奈子	電話：03-6733-6882

キャリア教育支援資料「キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査」パンフレット 子供たちの「見取り」と教育活動の「点検」～キャリア教育を一步進める評価～

■ 本資料の位置付け

キャリア教育の「評価」について、やり方がわからないと悩む先生方の姿が、「キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査」(以下：調査)で明らかになったことから、評価を、子供たちを対象にし、学びの成果や課題を捉える「見取り」と、学校全体を対象にし、取組状況等を捉える「点検」に分けて、それぞれ解説しています。

また、見取りと点検の関係性について説明し、教育委員会が各学校での取組を支える役割についても最後にまとめています。

このように四つのパートから構成されており、各校の必要なシーンに応じて、研修等に御活用いただきたい資料です。

■ 概要

pp. 2-3 “評価”に悩む先生方へ このパンフレットの使い方

キャリア教育を実施する上で、評価について悩む先生方が多いことが上記調査から明らかになったこと、評価は子供たちの学びの成果や課題を捉える「見取り」と、学校の教育活動の実施状況を捉える「点検」に分けられること、また、このパンフレットの使い方や構成等について説明しています。

pp. 4-5 見取りに係る調査結果、見取りを行う上で大切にしたいポイント

キャリア教育を進めていく上で、先生方はキャリア教育の成果を捉える重要性を感じる一方で、評価の仕方に悩んでいることを調査の結果から示し、見取りを行う上で大切にしたいポイントとして三点を紹介しています。三点とは、一. 社会的・職業的自立に向けて身に付けさせたい力を明確にする、二. 児童生徒の実態を踏まえた評価規準・指標を設定する、三. 身に付けさせたい力を児童生徒と共有する、です。

pp. 6-7 見取りの事例

見取りを行う上で大切にしたい三つのポイントについて、アプローチの仕方や各ポイントの理解を深めるための情報等を、掲載事例で解説しています。児童生徒の学びを生活や社会と関連付けながら捉える工夫や、掲示物等を活用して変容の過程を具体的に見取る工夫などを紹介しています。

pp. 8-9 点検に係る調査結果、点検を行う上で大切にしたいポイント

教育活動を点検することの重要性は既に各学校に浸透してきていますが、点検を計画立案の際に重視していたり、そもそも全体計画に位置付けたりしている学校はまだ多くない実態等を調査の結果から示し、点検を行う上で大切にしたいポイントとして三点を紹介しています。三点とは、一. 組織の視点から：実践を継続的に進められる体制をつくる、二. 指導計画の視点から：目標、計画、実践の一貫性を確認する、三. 連携の視点から：キャリア教育の充実につながる関係性をつくる、です。

pp. 10-11 点検の事例

点検を行う上で大切にしたい三つのポイントについて、アプローチの仕方や各ポイントの理解を深めるための情報等を、掲載事例で解説しています。児童生徒の自己評価と教職員の意識調査を組み合わせ分析し、教職員の共通意識の醸成につなげる工夫や、計画時の重点目標に対応したアンケート結果を指導計画・授業づくりの見直しにつなげる工夫、地域社会や企業・保護者の声を取り入れる工夫を紹介しています。

pp. 12-13 見取りと点検の関係性

見取りと点検は子供たちの学びのために行うものであり、両者は重なりをもっているものであること、そして、評価（見取り、点検）のカギとして、先生方が目指した目標や計画に立ち返ることの重要性を説明しています。また、教育におけるPDCA（検証改善）サイクルにおいてこそ、見取りと点検の結果を直ちに生かす、スピード感が重要であることを図と併せて解説しています。

pp. 14-15 学校や先生方を支える教育委員会

各教育委員会がキャリア教育の推進・充実に当たって果たせる役割について解説しています。キャリア教育の推進には、児童生徒に関わる教職員の意識・指導力の向上が重要であることから、教職員の資質向上の支援策として、研究協議会や管理職研修の開催、通信の発行等、各校のニーズにあった改善案があることを紹介しています。また、学校と家庭、地域社会、産業界との連携が重要であることから、連携を促す支援として、地域協議会の設置や関連人材情報の提供、キャリア教育の成果等を地域へ発信するといった改善案があることを紹介しています。

pp. 16 多様な側面から子供たちの学びを捉える

ポートフォリオ（子供たちの学習経験や活動の記録を一元化したもの）は、子供たちの学びを評価するために重要な資料であり、校種を越えて活用を続けるとより有効であることを説明しています。

また、キャリア教育のより良い実践のために、これまでに発行された、本資料と関わりが深いパンフレット類を掲載しています。